

平成29年度 NTT数理データシステム学生奨励賞 (Text Mining Studio 応募用)

高等学校におけるキャリア意識と学力向上に関する研究

－学力向上を主軸にした学校改善の取り組みに着目して－

静岡大学教育学研究科

教育実践高度化専攻 2年

伊藤 智美

1. 問題の所在

- ① 次期学習指導要領や高大接続改革への対応
⇒高等学校教育に求められている
- ② 各学校において育てたい生徒の姿を明確化し、教育課程を通じて育む
⇒教職員全体での学校の特色づくりを図っていく
- ③ 生徒一人一人がこれからの社会へ対応しうる「生きる力」を備える
⇒学力の3要素の育成と評価の充実、教員の指導力の向上
- ④ 高校2年時の家庭学習や対人関係・コミュニケーション、キャリア意識が、
大学1年時の資質・能力を含めさまざまな側面における学習に影響を及ぼす

①～③

高大接続システム改革会議「最終報告」（平成28年3月31日）

幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）（平成28年12月21日）

④ 京都大学・河合塾「学校と社会をつなぐ調査」第2回分析結果報告（平成28年9月24日）



キャリア意識の醸成を図りながら、学校全体で学力向上を図る取組が重要である。

2. 仮説

学力向上を主軸とした学校改善を進めている高等学校における、生徒のキャリア意識と学力向上の成果や課題を探ることは、これからの高等学校に求められる学校の在り方を探ることにつながる。

3. 研究の目的及び方法

目的

- ① 学力向上を主軸とした学校改善をすすめている高等学校における生徒のキャリア意識と学力向上の成果を明らかにする。
- ② 学力向上への取り組みについて、生徒と教員の意識の違いを明らかにする。

方法

- ① A 高等学校において生徒を対象に実施した質問紙調査より、キャリア意識と学力向上の取り組みについて自由記述をテキストマイニング分析を行い、成果を明らかにする。
- ② A 高等学校において教員を対象に実施した質問紙調査より、学力向上に必要な取り組みを生徒の分析と比較し、違いを探る。

4. A高等学校について

S県立A高等学校

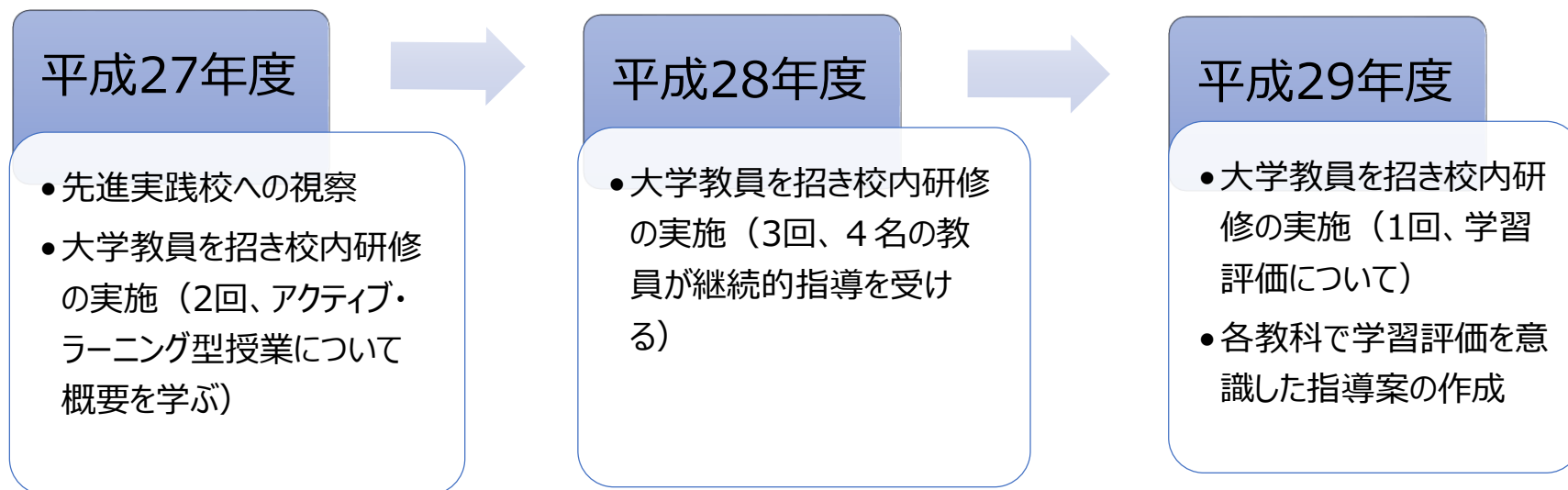
S県西部地区にある創立105年の伝統校

普通科:各学年9学級

生徒数定員：1080名

学力向上アドバンススクール事業指定校（S県教育委員会学力向上施策、平成27年度～平成29年度）

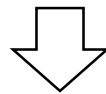
5. A 高等学校学力向上アドバンススクール事業内容について



- 特色ある取組：アクティブ・ラーニング型授業の推進
- 授業力向上へ大学教員等の外部人材の活用
- 全職員が、年2回以上アクティブ・ラーニング型授業の実施
- 研修課・情報課を中心に I C T 機器活用の推進
- 大学入学共通テストへ向け、「思考力・判断力・表現力」の育成を意識した授業開発

6. A 高等学校における質問紙調査

- 実施日 …平成28年12月
- 対象生徒…2年4学級（文系1、理系1、特進2）
1年3学級（普通2、特進1） 合計284名
- 調査内容…先行調査 + **学力向上に関する取り組み意識等**
- 対象職員…1、2年部職員 合計37名
- 調査内容…生徒質問 + **学力向上に関する取り組み意識・実践等**



以下のスライドにおいて

8.～18.：生徒対象質問紙調査データを基に分析

19.～21.：教員対象質問紙調査データを基に分析

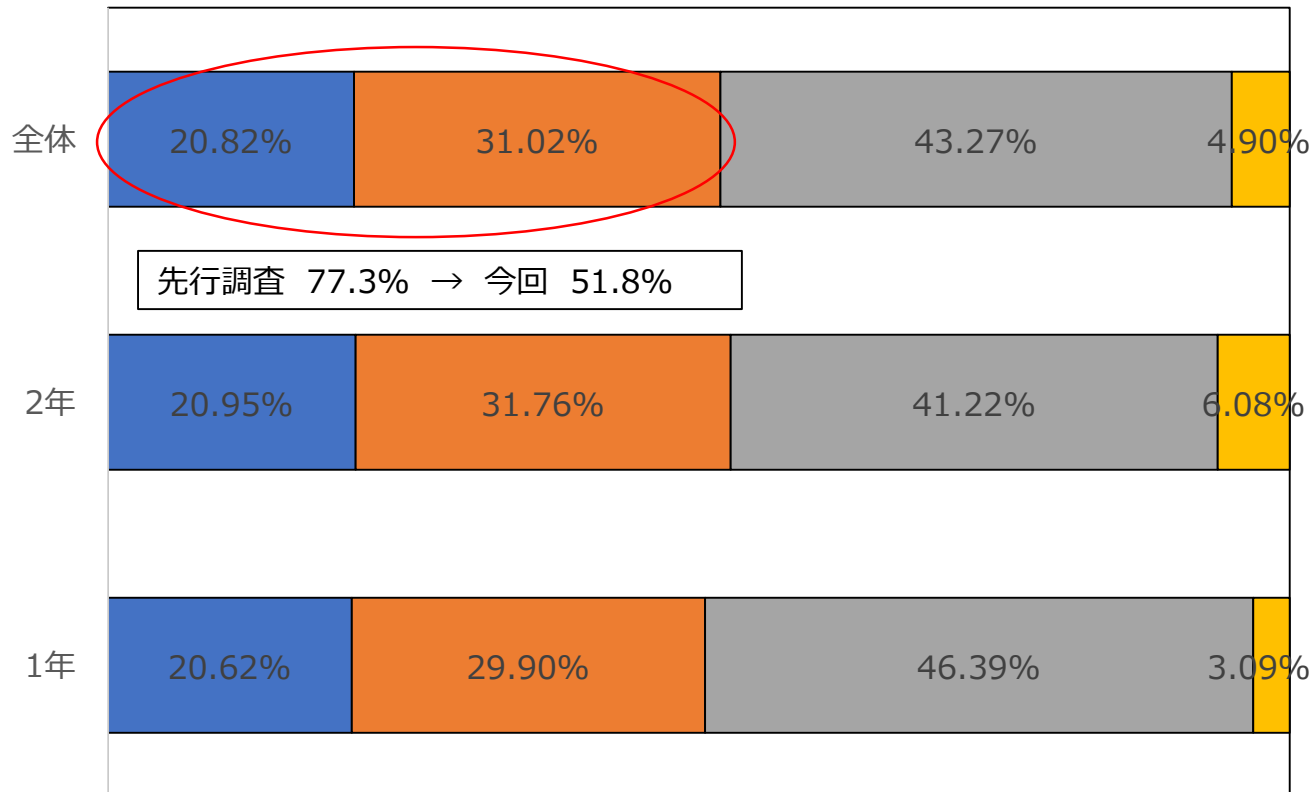
7. 先行調査について

- 調査名…「学校と社会とつなぐ調査」
- 実施期間…平成25年10月～12月
- 実施機関…京都大学・河合塾が共同実施
- 目的…高校2年生から約10年間追跡調査を行い、学校での学習や日常生活の過ごし方が、大学での学びや社会に出てからの仕事や人生にどのような影響を及ぼすかを検討する。
- 調査票…問1 性、学科などの属性 問2 学校や日々の生活
 問3 部活動と学習との両立、アクティブラーニングの取り組み、生徒の充実感
 問4 一週間の活動時間 問5 友だち関係
 問6 技能・態度の獲得 問7 自尊感情
 問8 キャリア意識 問9 進学や将来について
- 回答者…高校2年生（大学進学率約7割～8割の高校対象） 45,311名（A高等学校も含む）

8. キャリア意識についての質問紙調査回答

(65)あなたは、進学先（大学や短大、専門学校など）を卒業した後、どのような職業に就きたいか、どのような仕事をしたいか、その見通しをどの程度持っていますか。

■かなり持っている ■まあまあ持っている ■あまり持っていない ■まったくもっていない

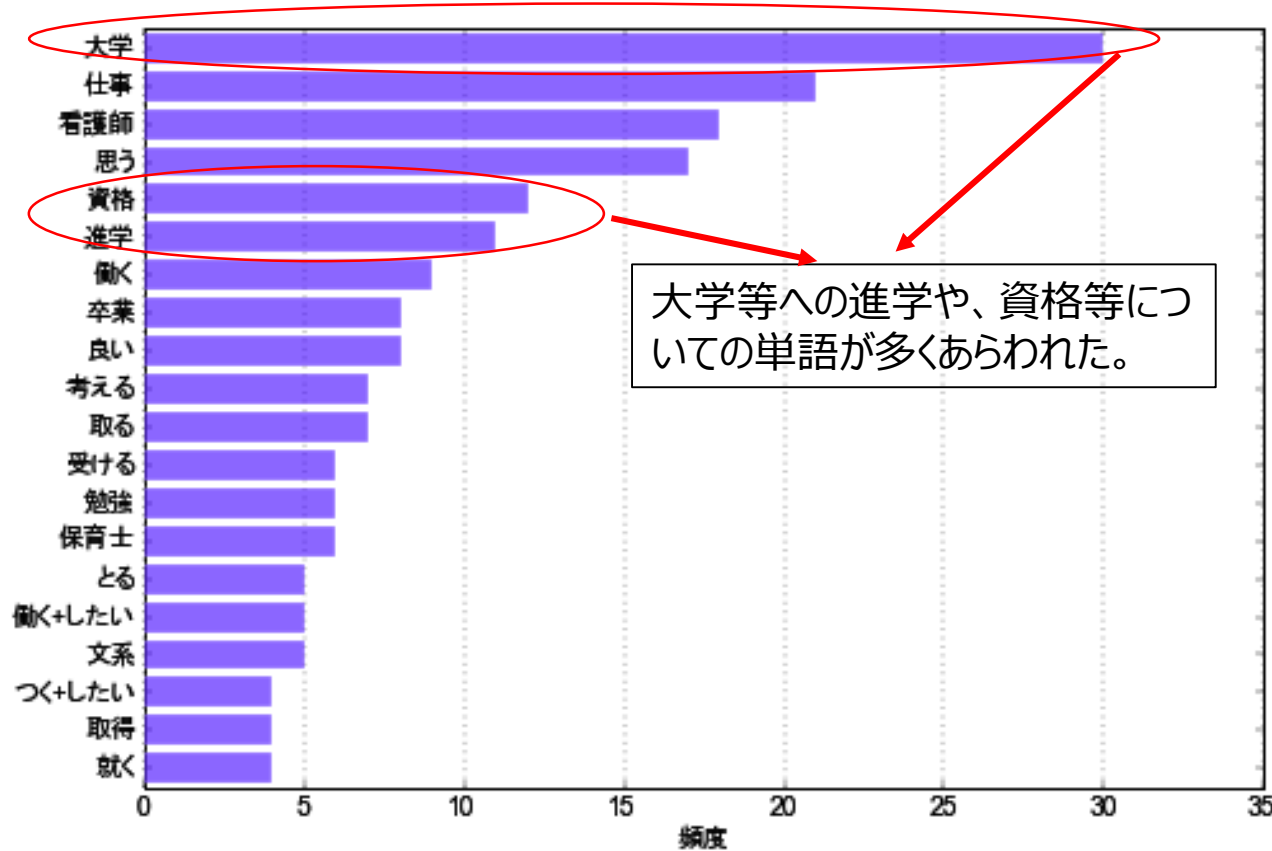


(66)
(65)の「かなり持っている」、「まあまあ持っている」人は「見通し」をできるだけ具体的に教えてください。(60文字以内)

(66)の自由記述を分析 (NTTデータ数理システム TextMiningStudio使用)

9. キャリアの「見通し」について「単語分析」

対象とした自由記述からは、延べ単語数752語、301種類の語が抽出された。上位20位までを下図・表に示す。



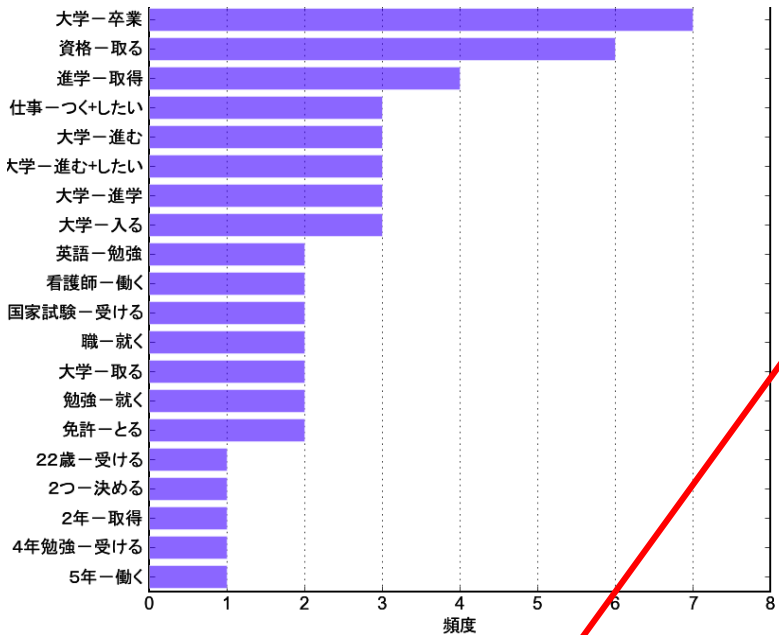
大学等への進学や、資格等についての単語が多くあらわれた。

単語	品詞	品詞詳細	頻度
大学	名詞	一般	30
仕事	名詞	サ変可能	21
看護師	名詞	一般	18
思う	動詞	一般	17
資格	名詞	一般	12
進学	名詞	サ変可能	11
働く	動詞	一般	9
卒業	名詞	サ変可能	8
良い	形容詞	一般	8
考える	動詞	一般	7
取る	動詞	一般	7
受ける	動詞	一般	6
勉強	名詞	サ変可能	6
保育士	名詞	一般	6
とる	動詞	一般	5
働く+したい	動詞	一般	5
文系	名詞	一般	5
つく+したい	動詞	一般	4
取得	名詞	サ変可能	4
就く	動詞	非自立可能	4

「見通し」が外部模試成績層によって異なるのかについて、「係り受け頻度分析」、「ことばネットワーク」による分析を行った。

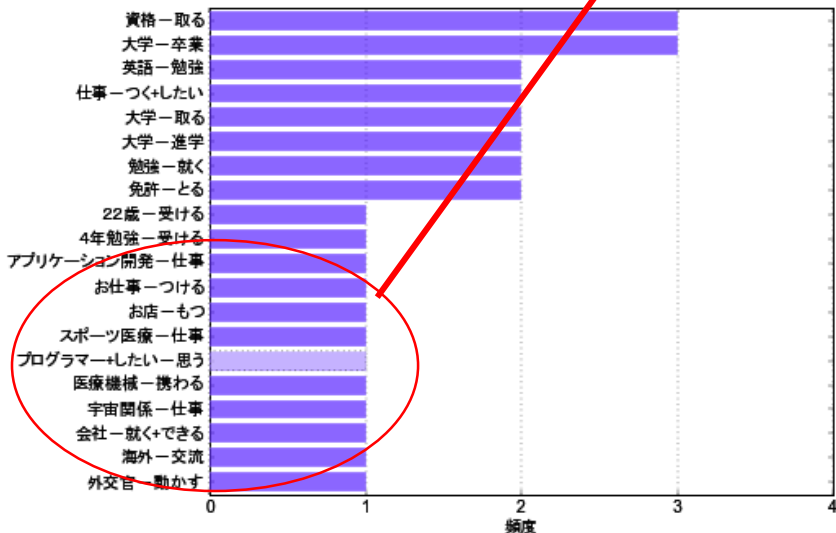
10. キャリアの「見通し」について「係り受け頻度解析」

全体

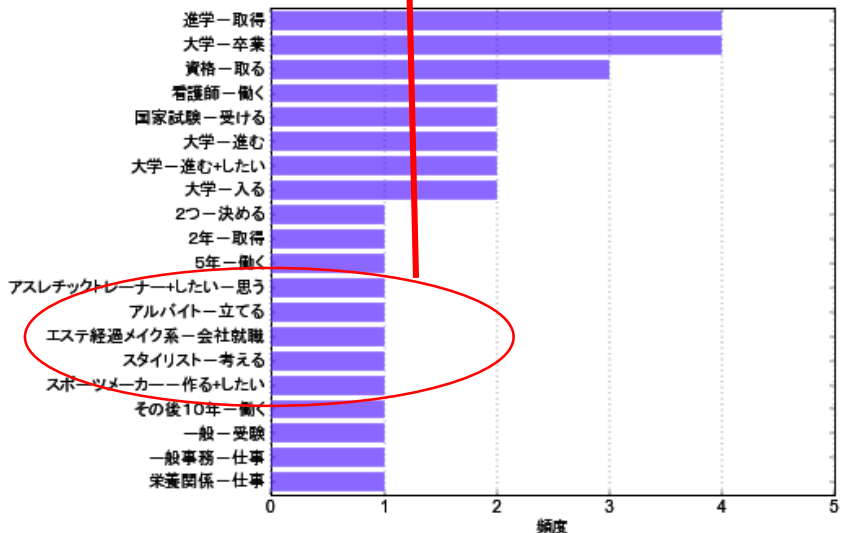


- 大学、資格、進学等については両方に多くみられる。
- High群では、大学等で学んだことに関連した「見通し」が見られる。
- Lowでは、直接職業への「見通し」が見られる。

外部模試成績 High 群

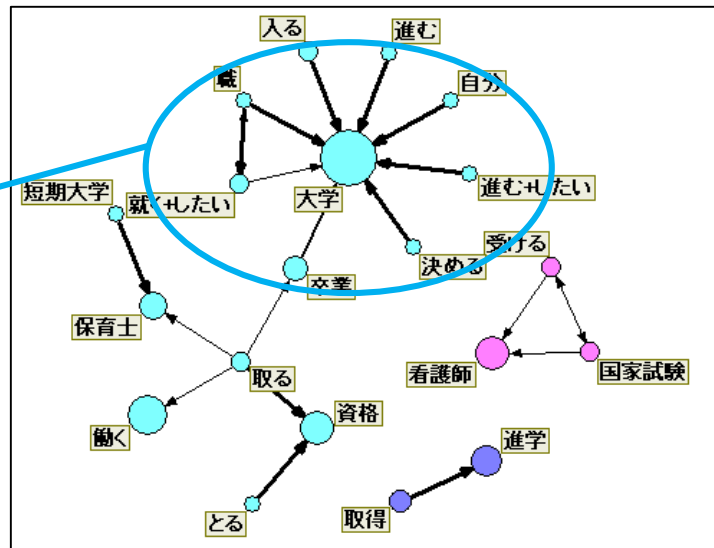
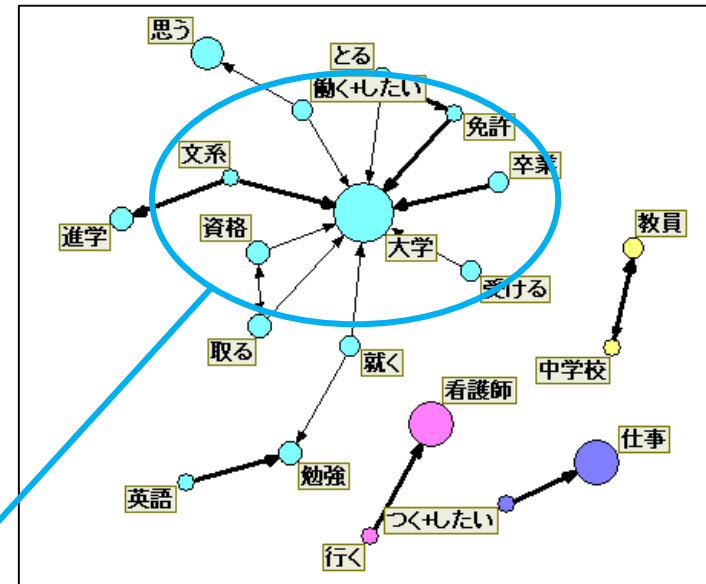
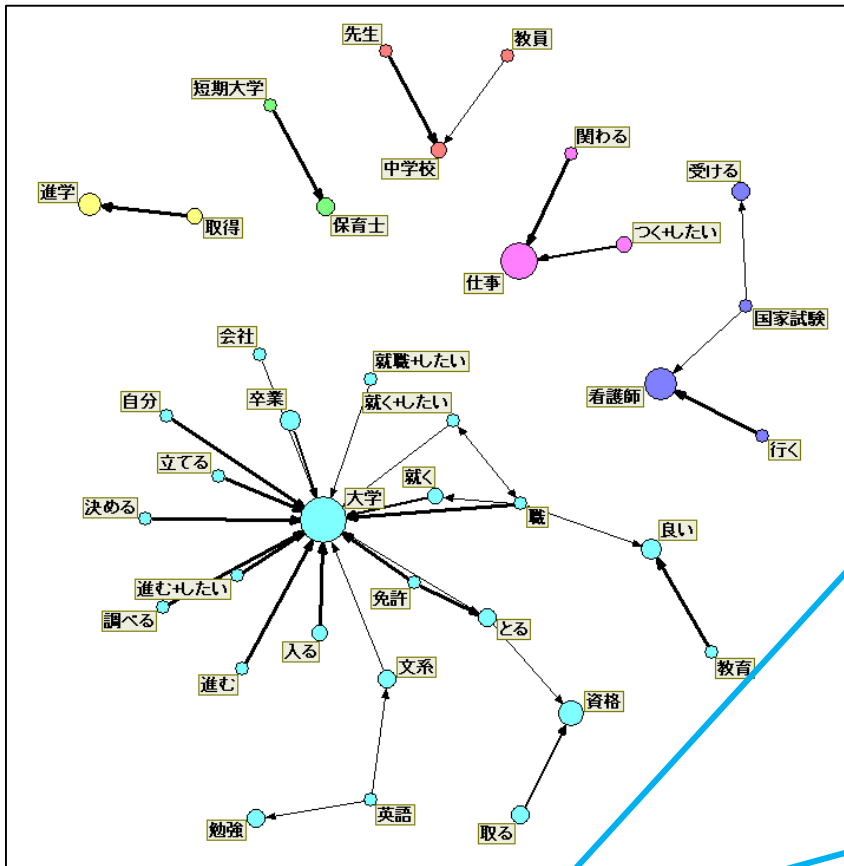


外部模試成績 LOW 群



11. キャリアの「見通し」について「ことばネットワーク」

全体



両群とも、「大学」については原文から、大学進学自体や、大学卒業後の職業が見通しとしてのネットワークが見られた。High群では具体的な資格や職業が挙げられ、Low群では、抽象的な表現にとどまっていた。

外部模試成績 High 群

外部模試成績 Low 群

12. 学力向上に望むこと①

(81)授業や学校の教育活動で、具体的にどのような取り組みがあなたの学力向上につながると
 いますか。あてはまるものを選んでください。〈授業に関すること〉

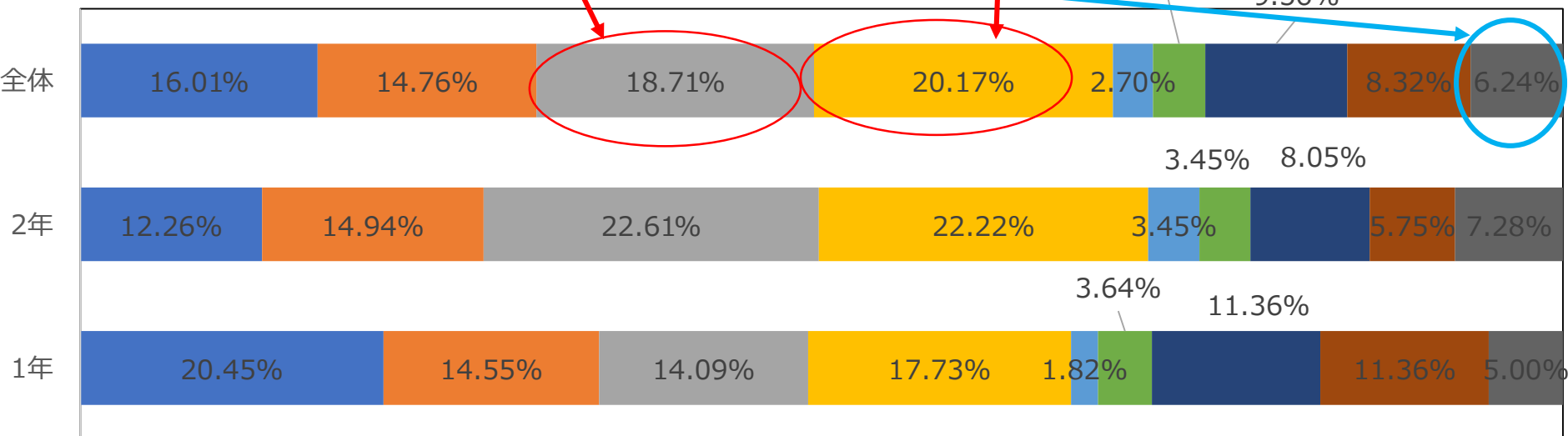
- iPad等の I C T を活用した授業
- グループ活動を取り入れた授業
- プレゼン等の発表を取り入れた授業
- プリント等を活用した授業
- 講義型の授業
- 基本的な学習内容を確認する小テスト
- 実生活を関連付けた応用的な課題への取り組み
- 自由研究のような探究的な活動



13. 学力向上に望むこと②

(81)授業や学校の教育活動で、具体的にどのような取り組みがあなたの学力向上につながると思いますか。あてはまるものを選んでください。＜教育活動に関すること＞

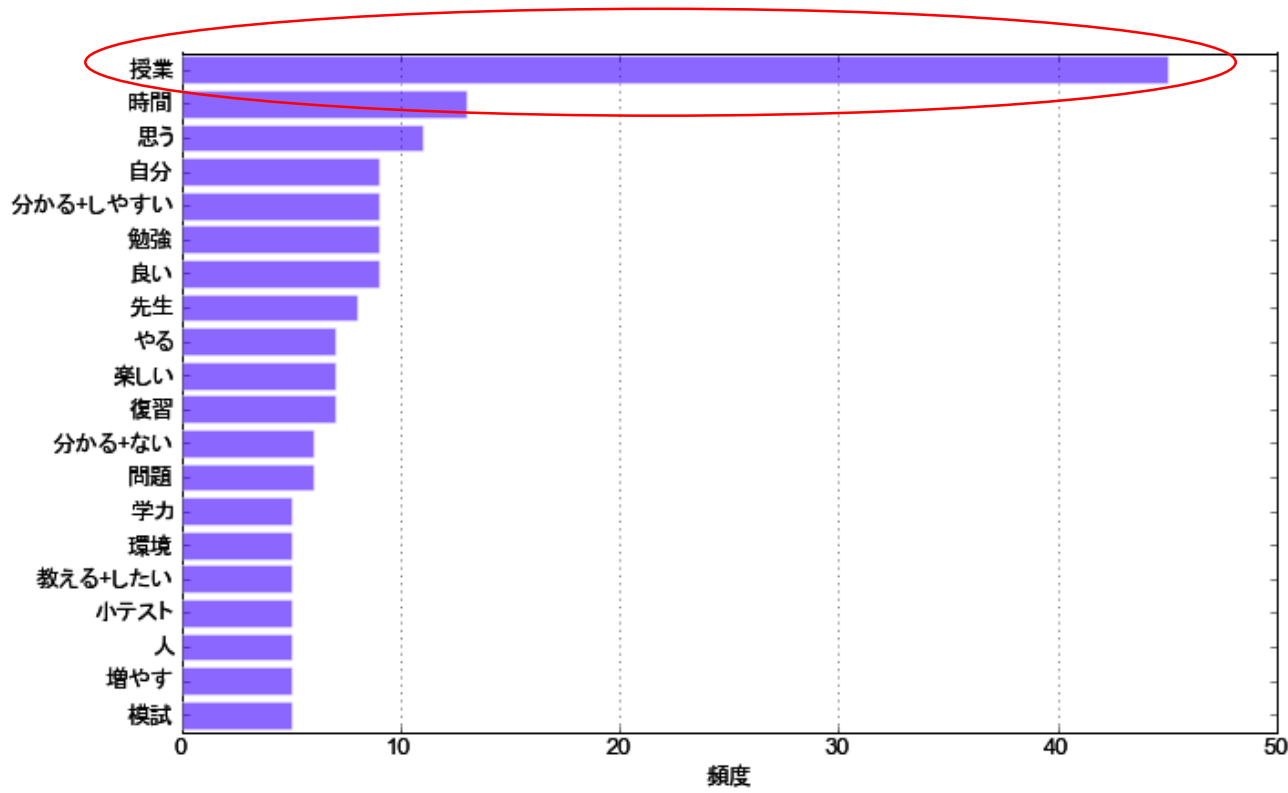
- 英語資格検定、漢字検定の受験
- 先生による個別の指導
- 予備校等の外部講師による課外授業
- 部活動毎の勉強会
- スタディサプリ等デジタルコンテンツを活用した学習
- 課外授業への取り組み
- 模擬試験の受験・復習
- 進路講演会
- 学校行事への取り組み



(82) その他学力向上のために授業や学校に望むものについての自由記述を分析 (NTTデータ数理システムTextMiningStudio使用)

14. 学力向上のために望むこと「単語分析」

対象とした自由記述からは、延べ単語数902語、415種類の語が抽出された。上位20位までを下図・表に示す。

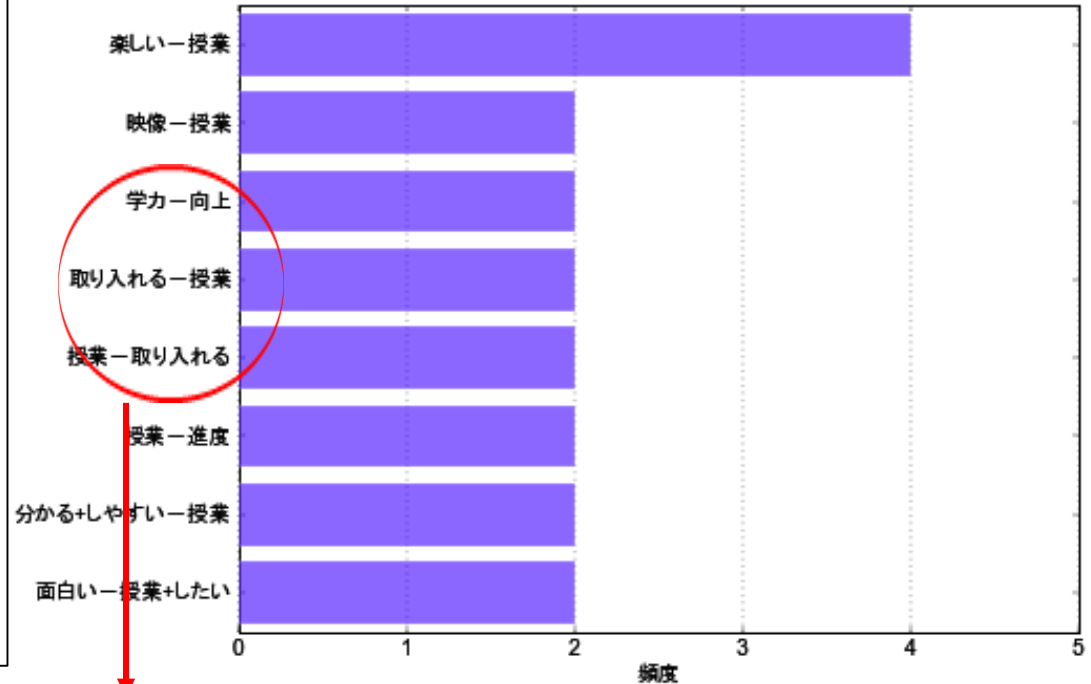
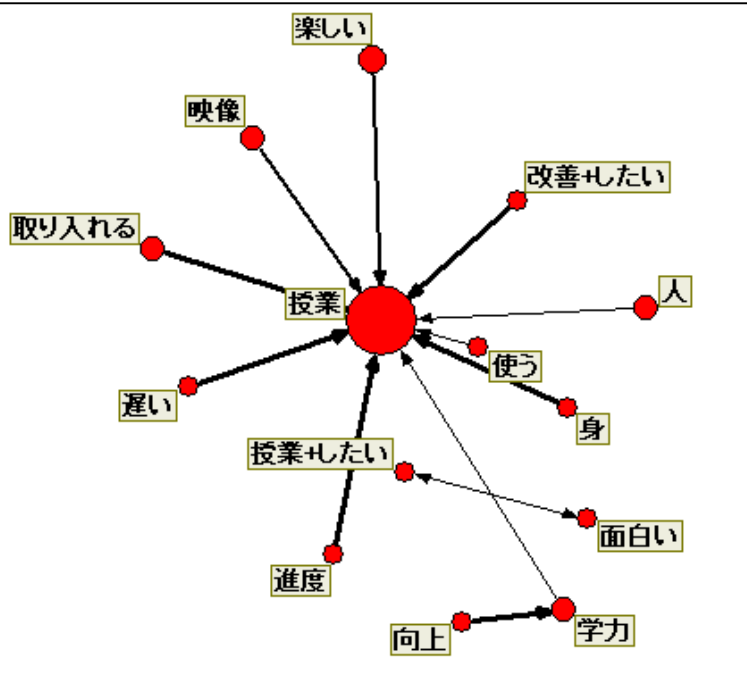


単語	品詞	品詞詳細	頻度
授業	名詞	サ変可能	45
時間	名詞	助数詞可能	13
思う	動詞	一般	11
自分	名詞	一般	9
分かる+しやすい	動詞	一般	9
勉強	名詞	サ変可能	9
良い	形容詞	一般	9
先生	名詞	一般	8
やる	動詞	非自立可能	7
楽しい	形容詞	一般	7
復習	名詞	サ変可能	7
分かる+ない	動詞	一般	6
問題	名詞	一般	6
学力	名詞	一般	5
環境	名詞	一般	5
教える+したい	動詞	一般	5
小テスト	名詞	一般	5
人	名詞	一般	5
増やす	動詞	一般	5
模試	名詞	一般	5

「授業」に関する記述が圧倒的に多くあらわれた。
「授業」を注目語とし、「注目語情報」分析を行った。

15. 学力向上のために望むこと「注目語情報」

注目語として「授業」について調べた



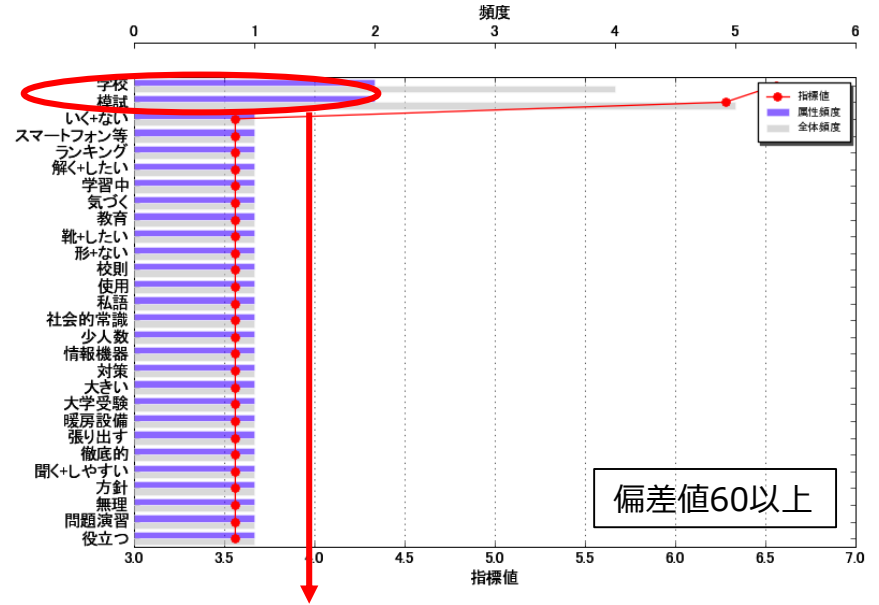
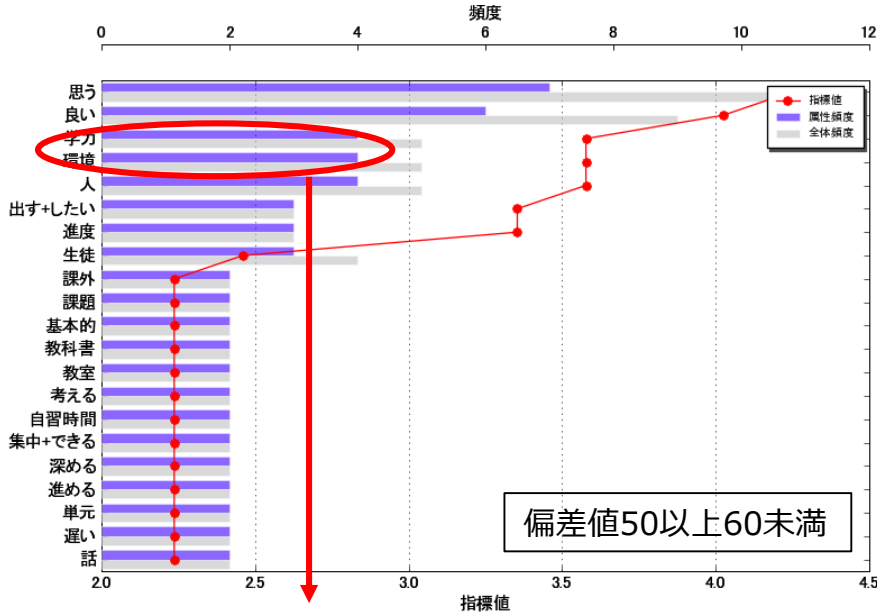
「授業」について、進捗や個に応じた対応等についての要望が見られた。

「望むこと」が外部模試成績層によって異なるのかについて、「特徴語抽出」、「ことばネットワーク」による分析を行った。

原文（学力-向上）
 学力の向上は気持ち次第なので、やる気スイッチを見つけて欲しい。
 お互いに学力が向上するような環境作り
 原文（取り入れる-授業）
 映像などバーチャルを取り入れた授業
 映像などを取り入れた授業を受けたいと思っています。
 原文（授業-取り入れる）
 話し合いの授業を取り入れること。
 それぞれの単元を元にして復習するための授業を取り入れる。

17. 学力向上のために望むこと「特徴語抽出」②

外部模試成績High群



原文

1人1人にあった進度で授業をすれば確実に学力が身につくのではないかと思います。
 レベルごとに分かれた授業など、自分の学力に応じたもの。
 お互いに学力が向上するような環境作り
 分からないときにいつでも質問出来てわかるまでやってくれる環境
 過ごしやすい環境
 居心地が良く、生徒が安心できる環境。
 放課後の教室での、友達と教えあいながら勉強できる環境。

原文

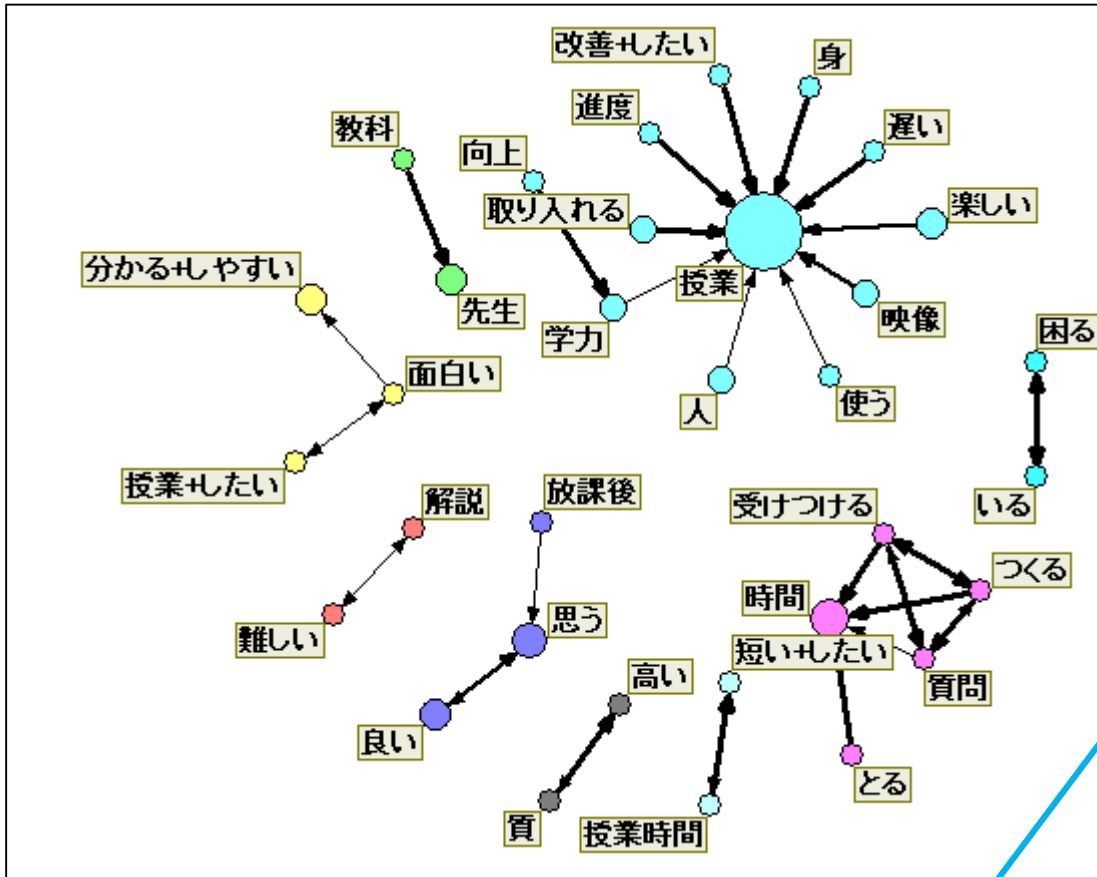
テスト期間にもう少し長く学校で勉強したいです。
 模試に対策した問題を学校で解きたい。
 学校の方針を大きく変える
 朝早く学校に来て毎日勉強している。



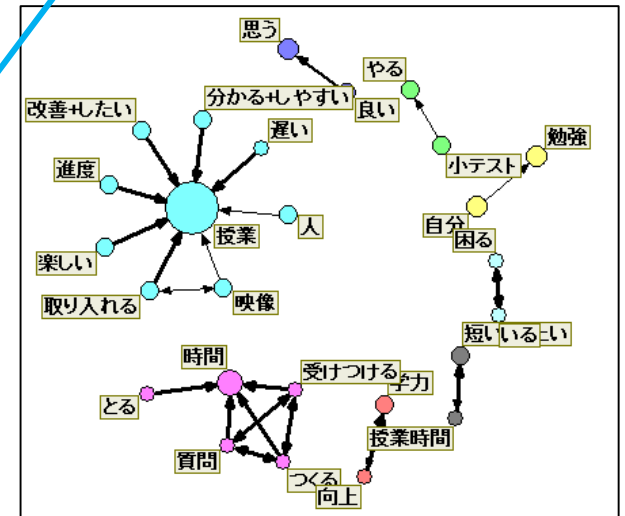
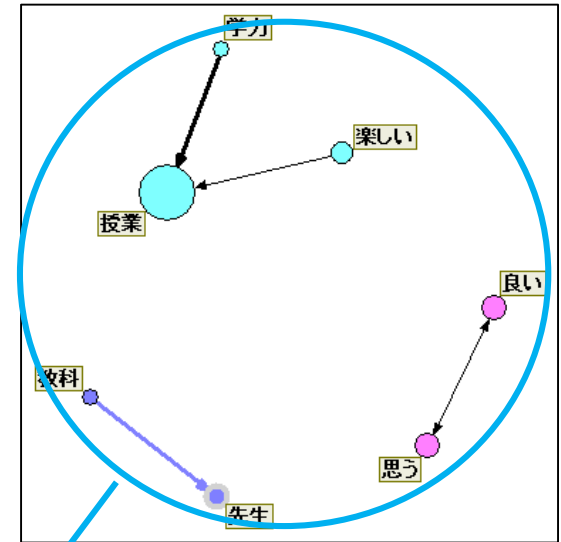
学校において、自らの学習を充実させるために望む具体的な要望が見られた。

18. 学力向上のために望むこと「ことばネットワーク」

全体



キャリア意識平均以上層



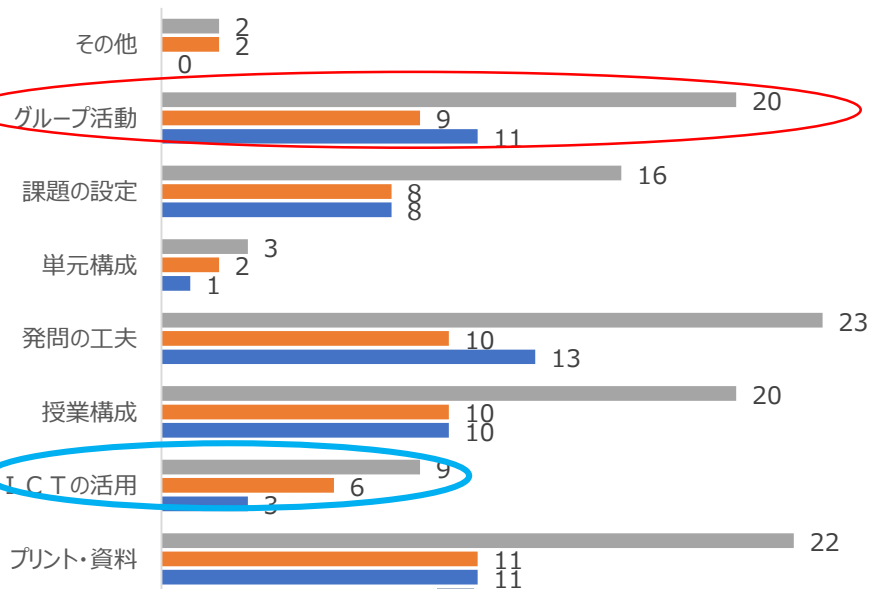
キャリアに対する「見通し」は持っているが、具体的に「見通し」の実現に向け要望を持つまでには至っていないと推察される。
 キャリ発達に関わる基礎的・汎用的能力「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」について、個々の実態を把握する必要がある。

キャリア意識平均未満層

19. 教員が学力向上に向け工夫していること

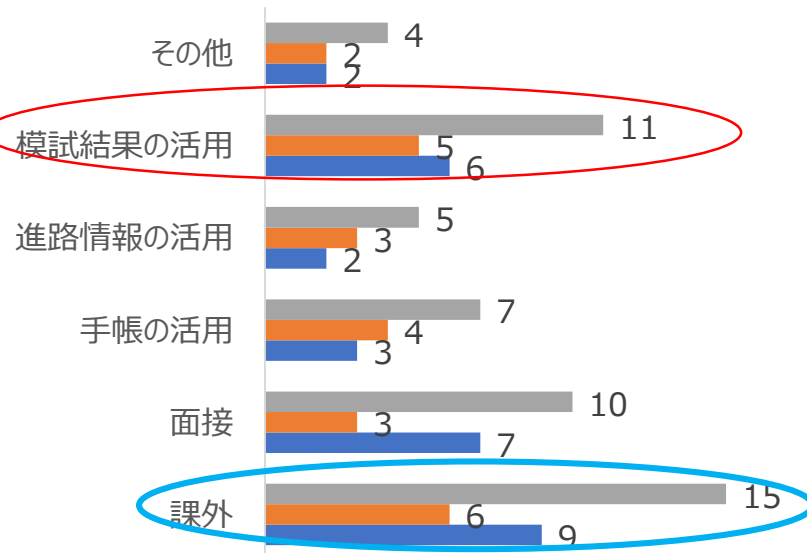
(67) 具体的にあなたが学力向上にむけ授業等で工夫している実践をお答えください。

■全体 ■2年部 ■1年部



グループ活動については、多くの教員が取り組んでいる。ICTの活用を取り入れているのは教員の半数未満であり、今後の課題である。

(68) 具体的にあなたが生徒の学力向上にむけ工夫している授業以外における実践をお答えください。

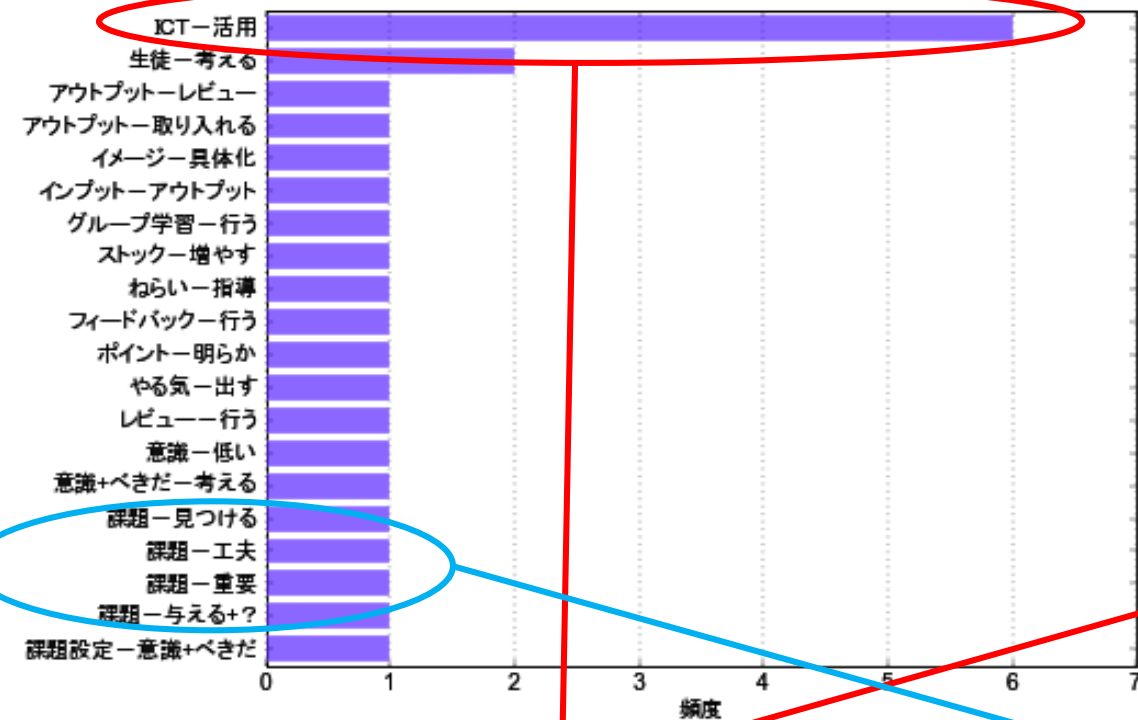


模試の活用については、生徒の要望ともマッチしている。多くの教員は課外について工夫を行っているが、生徒は課外授業よりも個別による指導を望んでいる。

学力向上に向け、今後取り組んだほうがよいと思われる取り組み、(69) 個人、(70) 学校全体についての自由記述を分析 (NTTデータ数理システムTextMiningStudio使用)

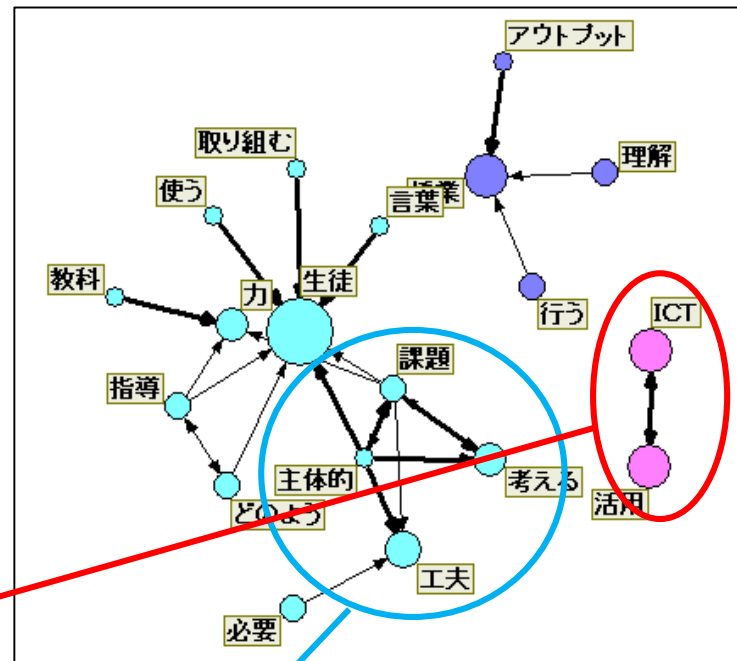
20. 学力向上に向け、取り組んだほうがよい個人としての取り組み

係り受け頻度分析



ICTの活用を通し、生徒の興味・関心を引き出し、学びに向かう姿勢を育みたいという意識が表れている。

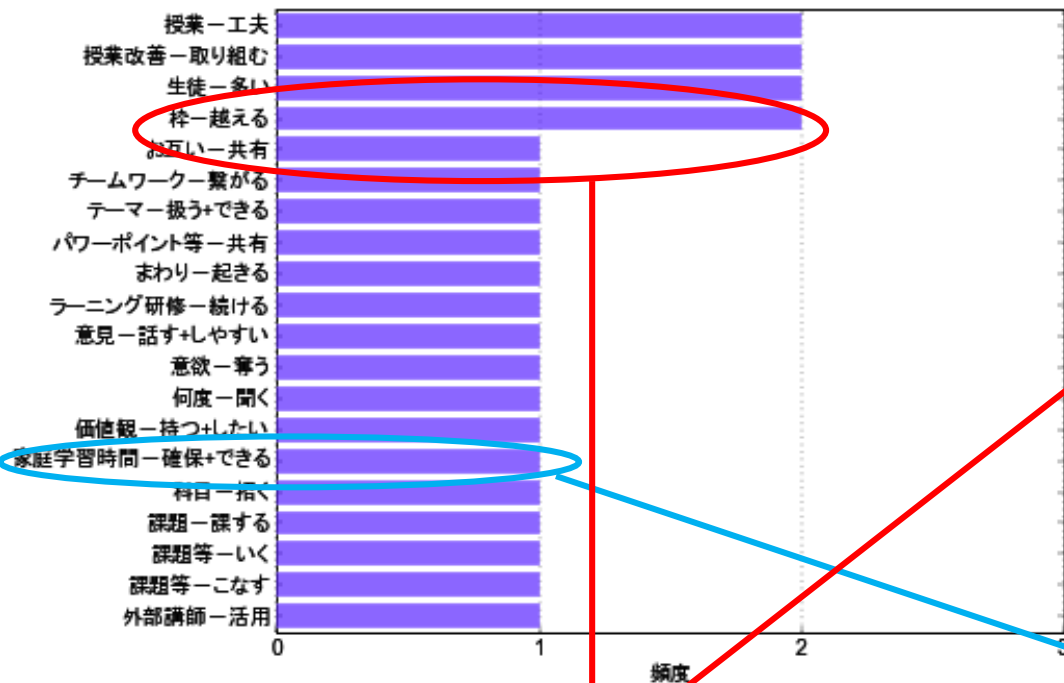
ことばネットワーク



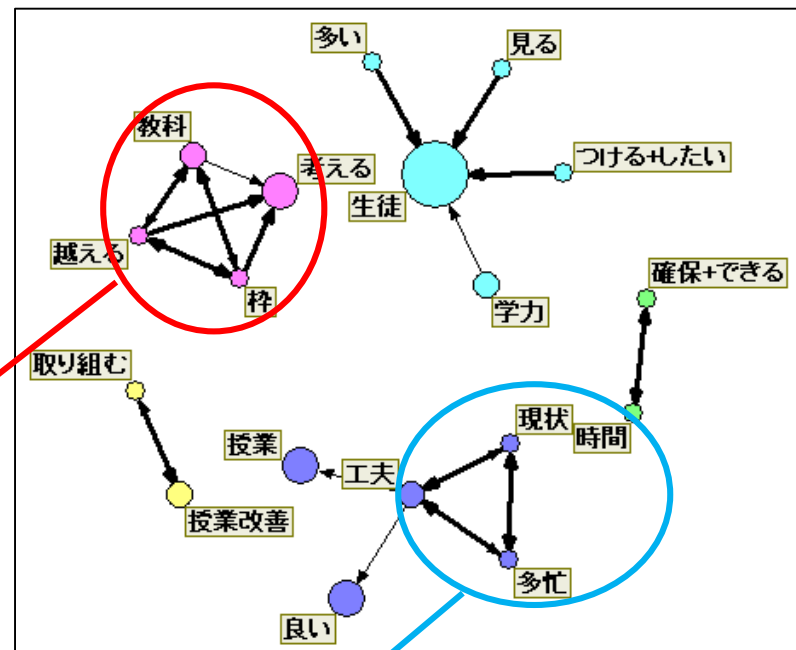
主体的に取り組めるような課題の工夫や、主体的、対話的で深い学びのための工夫を共有していくことが必要であるという意識が表れている。

21. 学力向上に向け、取り組んだほうがよい学校全体としての取り組み

係り受け頻度分析



ことばネットワーク



教科の枠を越えた授業改善や、教員のチームワークが生徒の学力向上に繋がると考えられていた。



教員個々の実践を結び、学校全体で生徒一人一人の学力向上につながるカリキュラムマネジメントが重要

生徒も教員も多忙である現状から、家庭学習の確保や、授業改善に取り組むためにも、現状を改善し、体制を整えていくことが望まれていた。

まとめ

- ① 生徒のキャリアに対する「見通し」は、大学進学や資格取得、職業等についてであり、外部模試成績High群の方がより具体的な「見通し」となっていた。しかし、進学先において学びたいことを考えるところまではほとんど至っていなかった。今後、知識基盤社会が成熟していく中、産業構造も変化し、職業選択がより複雑になってくることが予想されている。このような中で、生徒一人一人がより主体的にキャリアを形成していくためにも、キャリア発達に関わる基礎的・汎用的能力の育成がより重要であり、外部との連携を図りながら、具体的な手立てや見通しが持てるような支援がより求められていると考えられる。
- ② 生徒が望む学力向上につながる取組についての自由記述の分析から、多くある取組の中でも、最も授業の充実を望んでいること改めて明らかとなった。また、外部模試成績層ごとで望んでいることも異なり、共通性の確保と多様化への対応のバランスを踏まえた教育活動が必要であると考えられる。さらに、次期学習指導要領では総合的な学習の時間が総合的な探究の時間となるなど、より実生活の課題と結び付けた問題解決や探究的な活動を通して資質・能力を育むことが望まれているが、生徒はその必要性をあまり感じていない。教員の共通理解を図り、学校全体で教科横断的な取組を通して生徒に働きかけていくことが考えられる。
- ③ 教員個々の教育実践をより生徒の学力向上につなげるためには、共通認識や日常の情報共有、実践共通など学校全体で取り組むことが重要である。今後は、各学校独自の目指す生徒像から育てたい「資質・能力」を明確にし、学校・保護者・地域さらに生徒も共有したうえで、カリキュラム・マネジメントを通じた教育課程の構築と実践が求められている。

参考文献

- ① 溝上慎一編『どんな高校生が大学、社会で成長するのか』学事出版、2015年
- ② 藤原誠・宮本久也「今、高校教育に求められていること」『月刊高校教育』1月2017年 P22-29
- ③ 原清治「学力論の変遷と高校生に求められる『力』」『月刊高校教育』5月2015年P26-35
- ④ 溝上慎一他『『学校と社会をつなぐ調査』第2回分析結果報告（ダイジェスト版）』京都大学高等教育研究開発推進センター・学校法人 河合塾、2016年
- ⑤ 教育再生実行会議『自己肯定感を高め、自らの手で未来を切り拓く子供を育む教育の実現に向けた、学校、家庭、地域の教育力の向上（第十次提言）』2017年
- ⑥ 中央教育審議会『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』2016年
- ⑦ 高大接続システム改革会議『高大接続システム改革会議「最終報告」』2016年
- ⑧ 日本高校教育学会『これからの学校教育を担う教師を目指す』学事出版、2016年
- ⑨ 山崎保寿「学力の向上と学校の組織力-学力向上問題の多層的移送と学校組織力対応の課題-」『日本教育経営学会紀要』第52号2010年P25-36